

ヨードチンキ	消毒液	1
ロート目薬		2
マイティア		2
オロナイン	軽火傷	10g×3
レダコート	湿疹	5g×5
ピチロールバスタ	皮炎	30g×1
ムヒ	虫さされ	1
日焼止めクリーム		1
ガオイル		1
リップクリーム		1
メンソレータム		2
パテックス	湿布	5×4枚
ガーゼ		30cm×10m
繃帶		大中小 各2
脱脂綿		20g
油紙		2枚
絆創膏		3巻
バンドエイド		80枚
体温計		3
ハサミ		1
ピンセツ		2
眼帯		2
毛ぬき		2
タオル		1
爪切		

## 1 輸送

苗村元

(1) 大阪—アンカレッジ

今回の遠征で一番懸念されたことの一つに、この物資の輸送があった。と  
といふのは、日本からアラスカへ運行している船は不定期の貨物船だけで數  
も極少なかつた。また海運組合との問題等もあって、それに便乗することは  
難かしく、我々の場合は徒労に終つた。他の方法としては、シアトル回りの  
船便郵送と航空便郵送があるが、前者の場合は日数が思わぬ程かわり、受取  
りにはかなりやっかいな操作を必要とした。後者は問題にならない程費用が  
高かくついた。それに今期間中にはアメリカ西海岸一帯でストライキをして  
おりトラブルに巻き込まれることは必至であった。そこで我々自身が直接空  
路にて運ぶという方法をとつた。この方法には二通りあり、航空手荷物とし  
て人間と同じ飛行機で運ぶものと、別送荷物として国際航空荷物代理店を通  
じて運ぶものとがあった。出国の際には、現地での受け取りに時間がかかる  
ない前者の方法をとり、帰国時には後者の方法をとつた。航空手荷物として  
運ぶということは、1名につき20kgまで許される手荷物量から超過する重量  
だけ料金を支払うというもので、常に自分で運ばなければならず、通関も  
同様であった。空港で荷物をかかえて何回も往復しニガ笑いされるが、本人  
にとっては一番安心な方法であった。料金はSKY FREIGHTの適用を受け  
普通の半額である。ただし一人分の超過としないとスライドレイトの関係  
で高くなるのと、身の回り品であるという規定があるので、うまく処理しな  
いといけない。幸い我々の場合は航空会社側で善処していただけた。帰国の  
際には航空会社の貨物取扱所で簡単に引き受けてくれた。パスポートもいら  
ず、ただ料金を支払うだけであった。ただし日本での受け取りにかなりの日  
数を要した。概して日本側の空港や税関、代理店にくらべ、アンカレッヂ側  
はそれ程厳密な取調べがなく、そのルーズさで助けられた。またこれだけの  
苦労をせず大半を現地購入することも可能である。空輸料金はかなり高いから、  
その予算を購入に加算することができる。荷が少なければそれだけ1kg  
当たりの超過料金も高くなるから、この辺の計算が肝心である。もし一人20  
kgの荷で出国できるならば、この方がかなり得策だといえる。

## (2) アンカレッヂーパクソン

この間には、定期バスが走っているので、これを利用した。このバスはかなり高速で走り、荷も充分積める。我々の荷でも、三ヶ所ある倉庫のうちの二つに修まつたほどである。荷物代は取られなかった。一人につき、積める量の規定があるらしいが、我々が乗った頃は時期が早く他の客は3~4人という時であったから問題なかった。ただし最盛期になるとそうもいかないであろう。他にレンタカーの利用も有効であろうが、乗り捨て場所に困まる。我々の場合は、アンカレッヂ市内だけに利用した。

### (3) パクソーンースシトナ氷河

もし短期間の計画であれば徒歩にて入山することも不可能ではないが、渡渉、ラッセルなどで思わぬ日数をとられる。多量の物資を運ぶとすれば、この国においては飛行機しかない。幸い世界一飛行機が発達した土地で、氷河に降りることを商売とするブッシュパイロットなる人がいる。この契約はいたって簡単で日本から連絡すると、アンカレッヂに着いたら電話してくれという返事であった。その通りすると、今度はパクソンに着いたら電話をくれという返事。またその通りすると、明日行くという返事で、その通り飛んで来た。要するにタクシーで契約書などというものは一切ない。ただしどこでも飛ぶということはもちろんなく、気に入らない場所なら断わられる。機種はセスナスカイワゴンという軽飛行機でソリがついている。人間はパイロットを入れて4名乗り、そこへ約170kgの荷物（ダンボール箱4個、アタックザック3個）が積めた。ただしこの機は最初の一回だけで、この時転覆という憂目にあった。以後パイバースーパーカブという、パイロットを入れ2名しか乗れない小さな機が使われた。これには約120kgの荷（ダンボール4個、アタックザック1個）が積めた。セスナ1回とパイバー3回の飛行で空輸を完了した。パイバー機で運んだ荷は全てエアードロップしたが、予期していなかっただけに損害は大きかった。下山時にはなるべく軽くしてくれとのことだったので、装備等を放棄せざるを得なかった。パイバー3回の往復で下界へ出ることができた。

尚、輸送に関してご支援いただいた方々、並びに現地でご協力いただいた